

# ぶどうにおける基準施肥量

品種 作型	樹齢	目標収量 (kg/10a)	施肥時期	施肥量(未結果樹 : g/樹) (結果樹 : kg/10a)		
				N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
全品種	1年	—	2月中旬	15	9	7.5
			5月中旬	10	6	5
			7月中旬	10	6	5
			11月上旬	15	9	7.5
全品種	2年	—	2月中旬	24	14.4	12
			5月中旬	16	9.6	8
			7月中旬	16	9.6	8
			11月上旬	24	14.4	12
巨峰(有核) 無加温	結果樹	1000	9月下旬	1	1	1
			11月中旬	4	4	4
ピオーネ他(無核) 無加温	結果樹	1500	9月下旬	1.6	1.6	1.6
			11月中旬	6.4	6.4	6.4

※肥沃な土壌では施肥を控え、やせ地では2割増とする。

## 留意事項

- 土壌診断基準値のpH6.0~7.0を目標に石灰質肥料の施用量を決定し、12月に施用する。  
石灰要求度が高く苦土欠乏症が発生しやすいので、苦土石灰の施用が望ましい。
- 家畜ふん堆肥を施用する場合、施用量は牛ふん堆肥：500kg、豚ふん堆肥：300kg、  
鶏ふん堆肥：80kg/10a以内とする。牛ふん堆肥は遅効きするので早めに施用する。
- 地力が高くなると窒素過多により、花振るい、着色不良、枝の徒長、遅伸び等を  
引き起こすので注意する。

# 茶における基準施肥量(1)

目標収量(成木園) : 1800kg/10a

樹齡	施肥時期	施肥量 (kg/10a)		
		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
定植当年	6月上旬	3.75	3	3
	7月中旬	3.75	3	3
2年目	8月上旬～9月中旬	5	6	4.8
	2月中旬～3月上旬	5	6	4.8
	5月下旬	5	—	—
	7月中旬	5	—	2.4
	8月中旬	5	—	—
3年目	8月上旬～9月中旬	6	7	5.6
	2月中旬～3月上旬	6	7	5.6
	5月下旬	6	—	—
	7月中旬	6	—	2.8
	8月中旬	6	—	—

## 留意事項

- 3月定植の場合は、前年の秋に、栽培位置を中心に完熟堆肥を5～6t/10a施用する。
- 定植前に必ず土壌診断を実施し、基準値pH5.0～5.5を目標に酸度矯正を行う。
- 春植えの場合は、秋から2年生の施肥を行い、秋植えの場合は、翌年春から2年生の施肥を行う。

## 茶における基準施肥量(2)

目標収量(成木園) : 1800kg/10a

樹齢	施肥時期		施肥量 (kg/10a)		
			N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
4年目	8月上旬～9月中旬		8	9.5	7.6
	2月中旬～3月上旬		8	9.5	7.6
	5月下旬		8	—	—
	7月中旬		8	—	3.8
	8月中旬		8	—	—
成木 5年目以降	秋肥①	8月上旬	5	3	3
	秋肥②	9月上旬	5	3	3
	春肥①	2月上旬	8	5	5
	春肥②	3月上旬	7	5	5
	芽出し肥	3月下旬	7	—	—
	夏肥①	一番茶後	8	3	3
	夏肥②	二番茶後	10	5	5

## 留意事項

- 成木園では家畜ふん堆肥を8～9月に畝間施用する。施用量は、牛ふん：1000kg、鶏ふん、豚ふん（石灰含量が多い）：500kg/10a以内とする。
- 秋肥、春肥は有機質、無機質を併用する。芽出し肥は硫酸等の速効性肥料を用いる。
- 石灰質肥料の施用は秋肥の7日以上前とする。
- 窒素は1回あたりの施用量を10kg/10a以内とする。一度に多用すると、地下水汚染等の環境負荷を及ぼし、茶樹に対しては、濃度障害により根の伸長抑制、枯死、落葉などの樹勢低下を招く場合がある。